

CWA NEWS



行ってみよう ウィスコンシン州 vol.1 （歴史編）



ウィスコンシン州会議事堂

千葉ウィスコンシン協会関係者から、「日頃、ウィスコンシン州について活動をしているけれど、州にはどんないいところがあるのかよく知らない・・・」といった声をよく聞きます。たしかに、ウィスコンシン州の観光地や文化などについては、メディア等で取り上げられることは比較的少なく、なじみ深いとは言えないかもしれません。

そこで、本号から、ぜひ行ってみたいウィスコンシン州内のスポットを、州の歴史や文化、味覚、自然、産業などテーマ別に御紹介していきます。

まず、今回はウィスコンシン州の歴史とそれにちなんだスポットの紹介です。

●ウィスコンシン州の歴史

(1)ウィスコンシン州の誕生

1634年にフランスのジャン・ニコレが白人探検家として初めてこの地を訪れ、現在のグリーンベいのホーチャンク族の領地に交易拠点を築きました。

1755年に起こったフレンチ・インディアン戦争の後、ウィスコンシンは1763年にフランスからイギリスに譲渡されました。その後、独立戦争等を経て米国の領土に編入し、1836年にウィスコンシン準州として創設、1848年には米国30番目の州として昇格することになりました。

ウィスコンシンでは、19世紀、南部において、鉛鉱山の開発可能性により多くの開拓者が惹きつけられ、以後、ヨーロッパなどから移住者が各地へやってくるようになりました。

(2) ウィスコンシン州のネイティブ・アメリカン

ウィスコンシンという名前の由来は、オジブワ族の言葉で「赤い石の地」を意味する「Miskwasiniing」がフランス語風になまった言葉が元だそうです。

18世紀、ウィスコンシンには20を超えるネイティブ・アメリカンが住み、ウィグワムと呼ばれるドーム型の住居による集落を築きながら、農耕採集生活を営みました。19世紀に入って、米国連邦政府において移住法などによる民族浄化政策が実施され、部族の一部が他州へ強制移住させられます。

なお、現在、政府によって公認されている部族は、チッペワ族、メノモニー族、オナイダ族、ウィンネバーゴ族（ホーチャンク族）、マンシー族、モヒカン族となっています。

州内では、これら部族による保留地が各地に見られ、その中ではカジノや観光施設等が整備され、地域のアミューズメントスポットになっています。



20周年記念パーティーでネイティブ・アメリカンの踊りを披露

●観光スポット

では、ウィスコンシン州の歴史にちなんだ観光スポットを御紹介しましょう。

A オールド・ワールド・ウィスコンシン

イーグルにあるオールド・ワールド・ウィスコンシンでは、19世紀後半以降にヨーロッパからウィスコンシンへ移民した人たちの生活を紹介しています。ここでは、60以上の歴史的建造物が保存され、生活に関する歴史が紹介されていますが、この種の施設としては世界的にも最大規模ということです。1976年に、アメリカ建国200年を記念して建造されました。

保存されている建物の多くは1870年代のもので、園内では、職員が当時の衣装で、牛や馬の群れの中で畑を耕していたり、バターづくりを実演したり、リネンを紡いだり、鍛冶屋が蹄鉄を砕いたりなど、当時の生活を間近に味わえます。歩き疲れたらトラムを利用して楽しむことができます。

(ホームページ：<http://oldworldwisconsin.wisconsinhistory.org/>)

B ホーチャンク族保留地

上記のフランス探検家が、最初に出会ったホーチャンク族は、当初ウィンネバゴ族と呼ばれていました。1994年から連邦政府からの認定により、ホーチャンク族と呼ばれています。ホーチャンクとは「大きな声の人」を意味します。

ホーチャンク族は、現在、カジノ（5か所）、売店（5か所）、宿泊・会議施設（2か所）、映画館、キャンプサイトなどを数か所で運営しています。

また、保留地内では、ツアーが行われ、ホーチャンクの歴史や文化等が紹介されています。ツアーには、ウォーキングツアーと自動車によるツアーがあり、文化に富んだスポットやアトラクションを案内してくれます。最も人気のあるのは、ホーチャンクの歌や、鮮やかな衣装による踊りなどで構成されたツアーだそうです。

(ホームページ：<http://www.ho-chunknation.com/>)

C ネイティブ・アメリカンが運営するカジノ

州内のネイティブ・アメリカンの保留地では産業振興の観点から、カジノの運営が認められています。現在、州内にはこのようなカジノが28あり、来訪者は年間約2300万人に及んでいます。

このうち、州内最大のカジノは、パタワトミ族によるパタワトミ・ビンゴ・カジノで、メノモニーにあります。ここには、1500台のスロットマシンをはじめ、ブラックジャックやルーレット、ポーカー、ビンゴ等が楽しめる施設や、劇場等があります。入場は無料で、24時間営業ですが、21歳未満は国の法律によりプレイが禁止されています。(ホームページ：<http://www.paysbig.com/>)



D ナショナル・レールロード・ミュージアム

ウィスコンシンでは、州へ昇格を果たした後、鉄道整備が進み、1851年に初の鉄道路線、ミルウォーキー・アンド・ミシシッピ鉄道が開通して以来、1850年代の終わりまでに鉄道が州内を縦横に走るようになりました。また、これにより産業が促され、製品を国内各地に送り出すようになりました。

グリーンベイのナショナル・レールロード・ミュージアムは全米有数の鉄道博物館で、世界最大の蒸気機関車をはじめとする70以上の車両を屋外展示するほか、屋内では、ウィスコンシン州のみならず米国の鉄道の歴史に関する紹介や、様々な鉄道関連グッズ等を展示しています。

(ホームページ：<http://www.nationalrrmuseum.org/>)

E ウィスコンシン州会議事堂

州都マディソンにあるウィスコンシン州会議事堂には、州議会上下両院の議場や、州知事室、州最高裁判所等が置かれています。庁舎の高さは約86.7mで、ワシントンD.C.のアメリカ合衆国議会議事堂よりも3フィートだけ低く、マディソン市内では最も高い建物です。現在の庁舎はウィスコンシン準州時代から4代目で、1906年に建設が始まり、1917年に完成しました。

議事堂のドームには、彫刻家ダニエル・チェスター・フレンチによる「ウィスコンシン」という像が立てられています。この像は青銅製で、表面に金箔が貼られており、左手には鷹のとまった地球を抱え、右手は州の標語である「前進」を示し、頭には州の動物であるアナグマが乗せられたかぶとをかぶっています。

この議事堂は1970年に国家歴史登録財に、2001年には国定歴史建造物に指定されています。

(ホームページ：<http://tours.wisconsin.gov/>)

参考：トラベルウィスコンシン ホームページ (<http://www.travelwisconsin.com/>)、ウィキペディアなど

募集!! 今後、このコーナーを充実させるため、読者の皆さんが訪れたウィスコンシン州のとおきスポットを教えてください。場所、写真、コメント等を事務局へ連絡・送付お願いします。

特集 姉妹交流20年の歩み 下

今回で最終回となりますが、CWA発足以降の姉妹交流の足跡をたどりました。

10 ウィスコンシン州への「千葉県友好使節団」に参加して(2005年)

【千葉大学教育学部教授 磯崎育男さんからの寄稿】

千葉県と姉妹州であるウィスコンシン州を2005年9月8日から16日まで訪問する友好使節団（千葉ウィスコンシン協会主催）の学術グループに、阿部清司教授（当時）に誘われ参加しました。

9月10日 阿部教授、加瀬県国際政策室員（当時）等とともに、ドイル知事を表敬した後、ウィスコンシン大学マディソン校のケネス・H・シャピロ教授と会い、主としてアジア・パートナーシップ・イニシアティヴをベースとした交流について話しあいました。9月12日同大学ミルウォーキー校でビジネス・スクール及び教育学部等のカウンターパート（V. カンタイ・プラサド教授、



ウィスコンシン大学ミルウォーキー校でワンダ・ブランシェット教授と

ビジネス・スクール学科長、ワンダ・ブランシェット教授、教育学部学術担当副学部長）との部局間協定の可能性などについて話し合いました。

その後、千葉大学学長、国際交流担当理事などの了解を得て千葉大学とウィスコンシン大学ミルウォーキー校との大学間協定が締結されました。この協定に基づき、現在職員や学生の交流が進展しています。

私にとって、ウィスコンシン州は、1989年にウィスコンシン大学オークレア校に寄る機会があつて以来の訪問でしたが、ミルウォーキーは初めてでした。ミラービルやハーレーダヴィドソンの本拠地であることも魅力でしたが、ミシガン湖畔の素晴らしい景観なども忘れられない思い出です。



知事公邸前で阿部教授、宮崎久さんと

11 感動をありがとう(2006年)

【KIFA(香取市国際交流協会)岡澤美奈子さんからの寄稿】

我が家の居間にかかっている1枚の写真・・・90名ほどの人々が皆楽しそうに笑っている。これは5年前の3月にCWAの青木さんからの1本の電話で始まりました。ウィスコンシン州友好使節団の受け入れの依頼でした。KIFA（香取市国際交流協会）ができて間もない時で右も左も分からない状態での受け入れでした。CWAの方との会議、電話やメールでのやりとりは何十回したことでしよう。CWAの依頼に応えるべくKIFA会員も全力で山の様にある仕事にあたりました。そして遂に10月9日の当日を迎え、佐原でのホームステイが始まりました。使節団が滞在した6日間はお世話する私たちも心から楽し



東大戸小学校でのコンサート



みんな笑顔!パレス大藤にて

んで一緒に時間を共有しました。この受け入れ事業に係わって頂いた方は何百人にも及び、全ての人が佐原でひとつでも多く楽しい思い出を作って頂きたい・・・この思いの下に心を一つにしてそれぞれの役割を果たしてくれた受け入れ事業でした。5年が過ぎた今思い返しても感謝の気持ちで一杯になります。団員たちを気持ちよく受け入れてくれたホストファミリーをはじめ、この事業に係わった全ての方々に深く御礼を申し上げます。そして私たちにこのチャンスを下さったCWAの方々にも御礼申し上げます。大変だったことは何処かに飛んで、楽しく、感動的だったことだけを思い出させてくれるこの写真を見ながら今日も一日が始まります。

12 バイオマスグループ、情熱あふれる技術者達との交流(2007年)

【(独)農研機構農村工学研究所 中村真人さんからの寄稿】

会員の皆様、こんにちは。(独)農研機構農村工学研究所の中村です。私は、香取市において、メタン発酵という技術を使って牛のふん尿からエネルギーと肥料を作り、利用する研究を行ってきました。そのご縁もあり、2007年にバイオマスグループの一員に加えていただく機会に恵まれました。

滞在期間中、牛ふん尿のメタン発酵施設、トウモロコシからエタノールを作る工場、製紙工場の廃水処理施設、大学、研究所等をまわって、その担当者と意見交換を行いました。日本では考えられない規模の工場を見学したり、最先端の研究についての話を伺うのは、とても興味深く、純粋に楽しい時間をすごすことができました。



ウィスコンシン大学マディソン校でバイオマスグループのメンバーと



Rothwell家のすてきな地下室にて

また、見学先で出会った技術者の方々との交流も印象深いものでした。予定の時間を大幅にオーバーしても議論に付き合ってくださった、製紙工場の技術者のJohn S. Piotrowskiさん、自ら工夫することにより効率的なシステムを作り上げた酪農家のRichard Wagnerさんとお話できたことは特に印象に残っています。日本とアメリカで環境など異なる部分もありますが、技術を支えているのは携わる人々の情熱なのだ実感しました。

最後に、滞在中での生活をより楽しくしてくれたのは、ホストファミリーのRothwell夫妻の心温まるおもてなしでした。残念ながら、御主人のHamptonさんがお亡くなりになったとお伺いしました。心よりご冥福をお祈りいたします。

13 ウィスコンシン州友好使節団を迎えて(2008年)

【銚子市政策企画部秘書政策課 伊藤浩幸さんからの寄稿】

平成20年、人事異動で国際交流を担当、「今年度はウィスコンシン州友好使節団の受け入れがありますよ」と引継ぎを受け、なんとか手がかりをと国際交流に携わっている皆さんにいろいろな意見を伺ったのが、受入れ準備の始まりでした。皆さんからは、「市民を含めみんなが交流できる場をつくっては？」との助言もあり、各学校との交流に加え、2日目の夜に市民交流パーティを企画しました。思えば一番印象に残ったのがこの交流パーティでした。

ホストファミリーや市民有志が一堂に会したこの交流パーティでは、こちらの不安とは裏腹に最初から和気あいあいと話が弾み、最後にはみんなで輪になって大漁節を踊るなど、大変な盛り上がりでした。パーティは予算



市立銚子高校で生徒と一緒に書道を体験



千葉科学大学でホストファミリーと一緒に和太鼓を楽しむ

もなく手作りの感否めませんでしたが、最後には150人もの盛大なパーティとなり、参加いただいた皆さんが少しでも有意義な時間であったと感じてくれたらうれしい限りです。

終わってみれば駆け足で不安だらけの3日間でしたが、なんとか無事に銚子市での交流を終えることができたのも、快くご協力いただいた学校関係者や多くのボランティアの皆さんのおかげと大変感謝しております。何よりも9組のホストファミリーの皆さんには、千葉県とウィスコンシン州との架け橋を快くお引き受けいただき、この場を借りて改めて感謝申し上げたいと思います。

最後に、貴重な経験をさせていただいたCWAに感謝しつつ、今後もこうした交流が広がり、両地域の交流がますます盛んになるよう祈念いたしております。

<森山委員長・青木事務局長に聞く>

特集の締め括りとして、CWAの発足以降中心となって活動してきた森山さんと青木さんにご登場いただきます。「CWAの果たしてきた役割と今後の抱負」をテーマにお話を伺いましたが、今回そのさわりをご紹介します。CWAに参加した動機は違ってもなぜか今後の方向性は似通っていて、今後の活躍を大いに期待したいと思います。



CWAに参加して 幅広い分野で交流に 参加出来ました

森山 茂男（運営委員長）

——運営委員になった動機は？

2001年に初めてウィスコンシン州を訪問した際先方の窓口などの方々から大変お世話になったのでそのお返しをするためには、県を退職後も交流のお手伝いをしたいと考えました。特に、それまで長い間交流に携わってきた方から「県庁の人は、折角親しくなっても、直ぐに異動になるのが残念だ。」と言われたのが気になって、帰国後に、CWAの立上げのため検討委員会に参加したのがきっかけでした。

——運営委員になって良かったことは？

派遣・受け入れにおいて、幅広い分野での交流に参加したことで、多くの人から学ぶことが出来たことです。特にバイオマス分野については地球温暖化対策という、環境をテーマにしたお陰で、自分のモチベーションを保てたと思っています。

——つらかったことは？

一昨年インフルエンザで派遣中止の判断をした時です。結果的に延期した派遣が20周年に重なり、中止して良かったと思いますが、当時何回も相談しました。

——一番印象に残ったことは？

2004年ドイル知事が来県し、かずさで知事や茂木会長も参加したレセプションを県と共催した時です。バイオマスをテーマとした最初の受入の年でもあり、知事もかなり気合が入っていました。

——今後の抱負は？

使節団の派遣、受入だけではなく、その合間を縫って経済、農業など様々な共通の分野で交流の輪が広がることがいいと思います。互いのコミュニケーションを密にするためCWAがサポートし、ギブアンドテイクの関係が築ければいいですね。ウィスコンシン州と千葉県では人々の関心に幅があるので、地道に交流を積み重ねていくしかないと思っています。

——交流主体が県からCWAに変わりましたが？

CWAになってからは、それほど担当者が替わらないので、継続的な対応が可能になったと思います。一方で、県・州の姉妹交流という点では、県のサポートが欠かせないように思います。

——CWA会員へのメッセージ

1人1人の参加の積み重ねが大切です。昨年末の『太巻ずし』もALTとの交流が広がるきっかけとなったと思いますので、これからも出来るだけ多くの人に参加してもらいたいと思います。

——最後に一言

英語に関心があったことから、ヒヤリングや文法の勉強も毎日やっていて、経済紙も購読しています。CWAに参加したからこそ勉強を継続できたように思います。



ひとのために出来ることを することが私の流儀

青木 靖子（事務局長）

——運営委員となった動機は？

私にとって、ボランティアは生活の一部で、私の場合それは受けた教育、家庭環境に帰する所が大きいと思います。早大ラグビー部出身の父は役員として、ラグビー界の発展に尽くしていました。謙虚な態度で支援する父の姿から、スポーツマン精神やボランティア活動の在り方を垣間見た気がいたします。

また、幼稚園から高校まで教会に通い、大学もキリスト教系だったこともあり、他人（ひと）のために出来ることをするのは当然で、それが自分を活かすということであるという思いでボランティア活動を行って参りました。お役に立てることがあればと思い運営委員をお引き受けいたしました。

——運営委員になって良かったことは？

ウィスコンシン州の宮崎ご夫妻やジョージ前委員長をはじめ色々な方との出会いがあり、多くを学ばせていただきました。お金で買えない貴重な経験をさせていただいております。

——つらかったことは？

確かにつらいと思えることはありますが、自分の人間形成のために必要なことを経験させていただいていると心から思っております。

——一番感動したことは？

派遣後の若者の成長した姿を見て大変感激致しました。また、ホストファミリーのご家族が団員の結婚式に呼ばれたというお話を聞くと、交流のお手伝いが出来てとても良かったと思います。

——今後の交流への抱負は？

学校を通じての子供達の交流や趣味の会やグループの交流のきっかけ作りが出来たらいいですね。県の支援を受けている団体だからこそ個人ベースでは出来ない交流のお手伝いがしたいと思います。

——交流の主体が県からCWAに変わりましたが？

県主体の場合担当者が短期間で替わり、担当者によって交流の取り組み方が違っていたと思います。今はボランティア精神のある方が継続して活動していますので、ウィスコンシン側との意思の疎通も容易となり着実な交流が出来つつあると思います。

——県に期待することは？

職員の方の中には県の姉妹州であるウィスコンシン州との交流についてご存じない方がいらっしゃると思います。各課でどのような支援が出来るか提案していただくのもいいと思います。また、話がスムーズに進まない部局が見受けられるのでご理解いただきサポートしていただきたいですね。

——最後に一言

人のために何かできる事をする事が生活の中で当然と考えられ、ボランティアや社会貢献をする人を評価する社会にしていきたいですね。

グローバルフェスタChibaに出展



多くの来場者で賑わう展示ブース前

2月6日(日)「あなたが世界のためにできること」をテーマに、「グローバルフェスタChiba」が千葉大学で開催され、千葉ウィスコンシン協会ではブースでの出展を行いました。ブース内では、ウィスコンシンの魅力を四季ごとに自然や人々の暮らしの写真を通じて紹介したほか、これまで

での交流のあゆみを使節団派遣時の躍動感あふれるパフォーマンスを中心としたパネル展示などで紹介しました。

また、今年スーパーボールで優勝したウィスコンシン州の人気プロフットボールチーム「グリーンベイ・パッカーズ」が決勝進出を決めた試合の映像を流したり、選手のユニホームの展示を行ったほか、その熱狂的ファンが応援の際に使うチーズ型の帽子「チーズヘッド」を来場者に被ってもらい記念写真を撮っていただくなどして会場は大いに盛り上がりしました。グッズ販売などでも一定の成果を上げ、次のイベント開催に向け多くのことを学ぶことが出来ました。

ウォーカー新知事が就任



2011年1月3日、第45代ウィスコンシン州知事として、スコット・ウォーカー(Scott Walker)氏が就任しました。

ウォーカー新知事は43歳。州内のマーケット大学を卒業後、ウィスコンシン州議会下院議員、ミルウォーキー郡行政官を歴任、昨年の州知事選で共和党から

立候補し当選しました。

就任演説での公約は次のとおりです。

- 経済活性化と雇用創出
- 市民サービスと税収面における適正規模の州政府の実現
- 世界市場での競争力を持てるような、児童教育システムの改善
- 天然資源の保全
- 社会における家族の基本的役割の尊重

千葉県との交流についても、新知事の経験や若さを生かして、様々な分野の発展に向け取り組まれるよう期待したいと思います。

幕張ベイタウン・コアで「太巻き寿司講習会」を開催



太巻き寿司を作る参加者

昨年12月18日(土)太巻き寿司の作り方講習会を、千葉伝統料理研究会の峯岸喜子会長の指導のもと「幕張ベイタウン・コア」で開催しました。

参加者は20名でしたが、その内一般参加者が15名で、5名が外国人(米国人4名、メキシコ人1名)という国際色豊かな催しとなりました。

研究会の講師2名は朝9時に会場にいられて仕込みの準備をされました。一般参加者は11時に会場に入り、まずお寿司の作り方を見学し、その後1人1本ずつ教わりながら作りました。

次に2人1組となり、玉子焼きを巻いて作る薔薇の花模様のもう一回り大きなお寿司作りに挑戦しました。花柄がそれぞれ個性のある形になっていましたが、全員がまずまずの出来栄で、各自が自分達で作った海苔巻き1本、玉子焼き巻き0.5本をお土産に持ち帰りました。

終了時間は午後1時、ちょうど2時間の和やかな料理体験教室でした。

早春の南房総フラワーラインを巡るバスツアーで大満足

好天に恵まれた2月26日(土)、房総半島最南端の海岸の街道一面に春の花が咲き誇る「フラワーライン」を訪ねるバスツアーを開催しました。

参加者は、過去最多の46名が参加し、一般参加28名、内子供3名、外国人5名(米国人3名、キューバ人1名、中国人1名)という国際色豊かな構成となりました。

「南房パラダイス」では、シンガポールの象徴・マリーライオン像が出迎えるトロピカルムード一杯の植物園を見学。昼食は「いこいの村たてやま」で、新鮮なお刺身料理に舌鼓みを打ち、海岸に広がる「白間津のお花畑」では、咲き誇る春の花を思い思いに摘み取り、道の駅くらの「潮風王国」では楽しいお買い物、館山観光いちご狩りセンターでは、真っ赤に熟れたいちごを好きなだけ口にほおばる満足感をたっぷり味わうことが出来ました。



【編集後記】

全米プロフットボールのグリーンベイパッカーズがスーパーボールで勝利し、14年ぶりに全米王者になりました。熱狂的ファンの多さで知られる現地や州内では大変な盛り上がりだったと思われます。パッカーズは、シーズン最終週で地区2位ようやく滑り込み、全米一へ駆けのぼりました。苦心の末、リーグ3位から5年振りに日本一に輝いた千葉ロッテマリーンズとどこか似ていて一層愛着を感じました(マリーンズも熱狂的ファンが多いです)。

発行所：千葉ウィスコンシン協会

発行人：森山茂男 編集：広報部会

<http://www.chiba-wisconsin.jp/>

〒261-7114 千葉市美浜区中瀬2-6 WBGマリブイースト14階

(財)ちば国際コンベンションビューロー内

*電話でのお問い合わせ ☎043-223-2398(千葉県国際室)